

平成30年5月23日（水）文部科学省

「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」

当事者のニーズに係るヒアリング

聴覚障害者・ろう重複障害者 の学びの推進について

宮城教育大学特別支援教育講座

准教授 松崎 丈

プロフィール

■ 聴覚障害

ろう者、先天性の感音性難聴

■ 現在の仕事

宮城教育大学特別支援教育講座 准教授

// しょうがい学生支援室聴覚しょうがい部会 部会長

■ 主に取り組んでいる研究

聴覚障害・ろう重複児・者とのコミュニケーションに関する実践研究

聴覚障害領域の学校コンサルテーションに関する研究

聴覚障害領域（教育分野）の情報バリアフリーの整備に関する研究

聴覚障害

- 補聴器装用による日本語音声の聴取の効果は得られやすい。

伝音性難聴

伝音系（外耳、中耳）の障害によって起きる難聴。
音声小さくなって聞こえる。

- 補聴器装用による日本語音声の聴取効果に個人差がある。

感音性難聴

感音系（内耳、後迷路）の障害によって起きる難聴。
音声が歪んで聞こえる。

混合性難聴

伝音性、感音性の両方の難聴を併せ持つ。

聴覚障害者・ろう重複障害者

■聴覚障害者（児含む）

障害者手帳所持者人数：**242,200人**（平成23年度厚生労働省「生活のしづらさなどに関する調査」）

※身体障害者福祉法の障害認定基準が両耳聴力レベル70dB以上（高度・重度）であるため、障害者手帳交付対象外の聴覚障害者も含めると、少なくとも**1,000万人**以上はいると推定。

（補聴器供給システムの在り方研究会「補聴器供給システムの在り方に関する研究3年次報告書」2004）

※そのうち日本手話を母語とするろう者は**約60,000人**いると推定されている。（市田ら, 2001）

■ろう重複障害者（児は含まない）

聴覚障害と肢体不自由：**81,000人**（厚生労働省 平成18年身体障害児・者実態調査結果）

聴覚障害と内部障害：**15,000人**（厚生労働省 平成18年身体障害児・者実態調査結果）

※知的障害、発達障害や精神障害などの他の障害も含めると、もっと多くいる可能性。

聴覚障害者に求められる 学習プログラム・実施体制等について

聴覚障害共通

- ①自身が直面する障壁や配慮について意思表示する実践を学ぶ
学習プログラム
- ②主体的に学ぶ機会の確保や拡充につながるICT利活用に関する
学習プログラム
- ③文化芸術等で日本手話や視覚活用による活動（音楽、演劇、文学
など）にも触れることで「文化」を継承・創造する担い手として
活動する学習プログラム

聴覚障害者に求められる 学習プログラム・実施体制等について

先天性難聴・乳幼児期の失聴

- 各ライフステージや各活動場面で活動するために必要な日本語（読み書き）とそれを用いた意思疎通の方法を学ぶ学習プログラム

中途失聴 （音声言語獲得以後に失聴）

- 聴覚障害などに関わる社会資源（心理支援、福祉サービス、法律など）や対処技法（自己開示・コミュニケーション・理解啓発など）を学ぶ学習プログラム

一般的な学習活動への参加の推進方策について

意思疎通や情報アクセスの面で求められること

- ①意思疎通支援事業（手話通訳・要約筆記）の制限や地域差の解消
- ②主催者側による通訳サービスやコミュニケーション支援アプリ（音声認識・筆談など）の積極的活用、台本や進行シナリオ等の貸出、通訳者への事前情報提供、補聴支援システムの設置など
- ③電話リレーサービスでの対応と公的サービス化（主催者側も利用可能に）
- ④生涯学習関係の案内に通訳の有無などを明確に記載し、案内方法も手話映像やわかりやすい日本語で実施
- ⑤本人の心身状態などの関連で生じる聴力の変動や耳鳴りへの対応

一般的な学習活動への参加の推進方策について

人材の育成・確保の面で求められること

- ①スポーツ、文化芸術など各分野に対応できる専門性のある通訳者（ろう通訳者含む）の育成・確保
- ②聴覚障害者・通訳者・主催者との調整・交渉を担うコーディネーターの育成・確保
- ③ろう重複障害者の通訳・移動・コーディネートを担う支援者の育成・確保